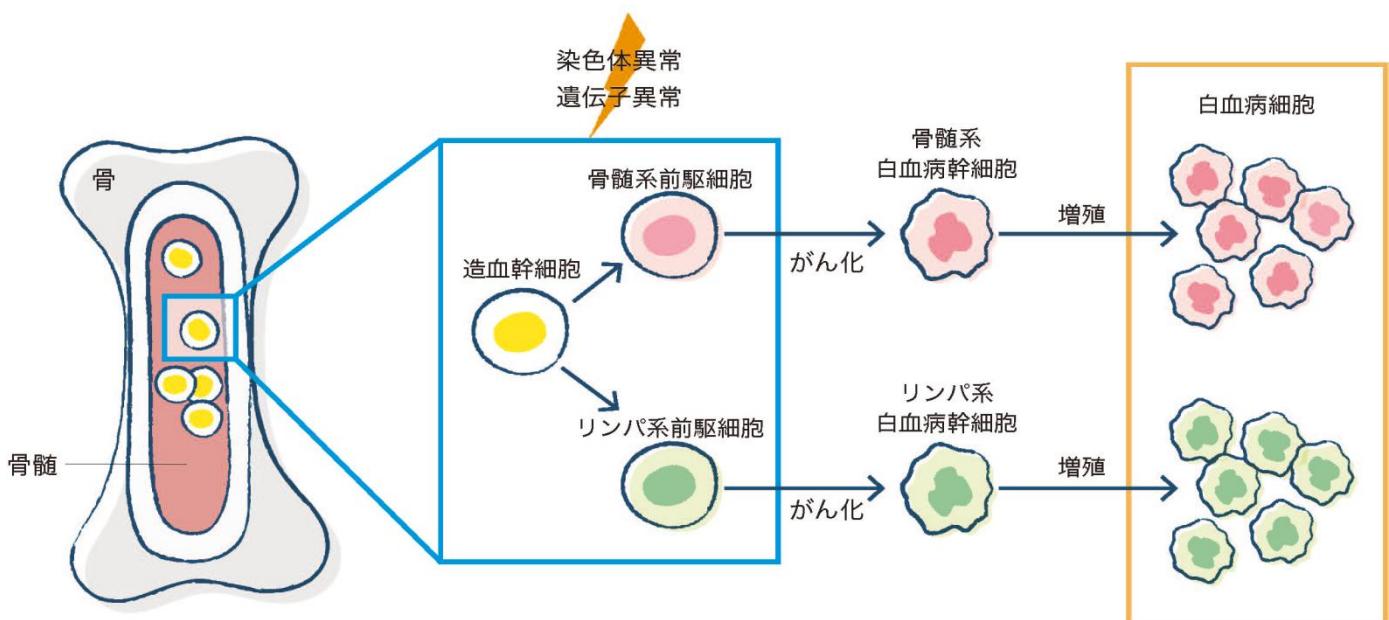


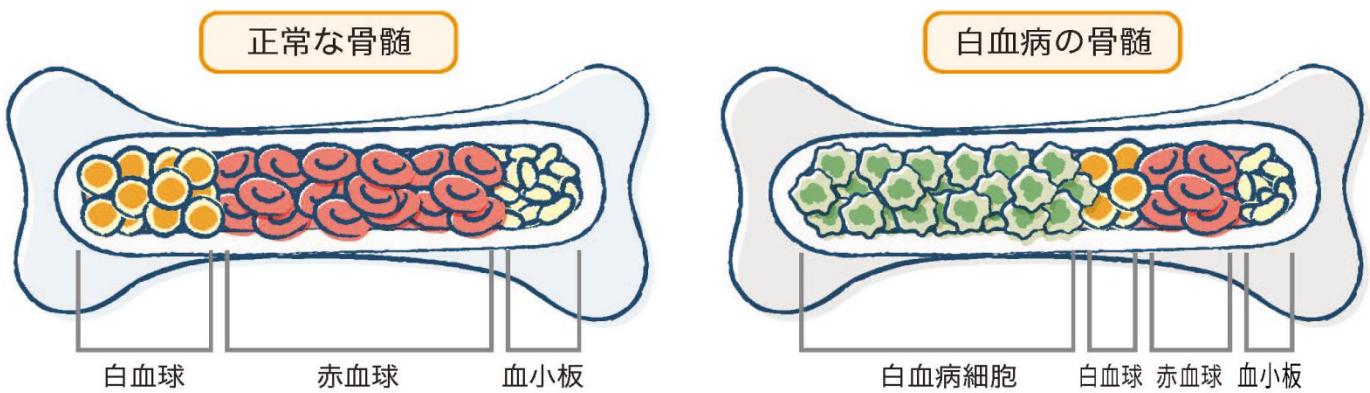
白血病ってどんな病気？

白血病は「血液の悪性腫瘍（しゅよう）」で、がんの1つです。血液の種である造血幹細胞（ぞうけつ かんさいぼう）は、本来白血球や赤血球、血小板といった血液細胞に変化していきます（「分化と成熟」と呼ばれています）。その途中の細胞ががんになり、無秩序に増えてしまう病気が白血病です。

白血病細胞のなりたち

白血病では、造血幹細胞から白血球や赤血球などの血液細胞に変化する途中の前駆細胞という細胞が、何らかの理由によって生じた染色体や遺伝子の異常によって正常な分化ができなくなっています。すると前駆細胞はがん化して白血病幹細胞へと分化し、さらに増殖して白血病細胞となります。





骨髄では白血球、赤血球、血小板の細胞が正常な比率で造血されている。

腫瘍化した白血球系細胞（白血病細胞）が増えたために、正常な血液細胞の造血が減少する。そのため以下の症状がみられる。

- 白血球減少 → 感染しやすい
- 赤血球減少 → 貧血を起こしやすい
- 血小板減少 → 出血しやすい

人間の血管の中には血液が流れしており、そこには、組織に酸素を運ぶ赤血球、出血を止める血小板、体内の細菌やウイルスと闘う白血球などが含まれています。白血球はさらに単球、好中球、好塩基球、好酸球、リンパ球に分けられます。リンパ球にはB細胞とT細胞があり、そのほかにNK（ナチュラルキラー）細胞があります。

これらの血液細胞はすべて骨の中の骨髄で作られる造血幹細胞が成長（分化と成熟）して生まれてきます。

白血病は、これらの血液細胞が骨髄で作られる過程で未熟な細胞ががん化（悪性化）し、異常な白血病細胞（がん化した細胞）が無秩序に増殖する血液がんの1つです。

白血病などの血液がんでは、発症リスク軽減や、治療の効果がある食べ物は見つかっていません。療養中の食事は、全身状態を良好に保ち、体力を維持することや、感染などを防ぐために、十分なエネルギーを補給でき、タンパク質、ビタミン、ミネラルといった栄養素をバランスよく含む食事をゆっくりと食べるよう心がけることが大切です。体調や治療の副作用で食欲が出ない日もありますが、そのようなときには、無理をせず、食べられるものを食べるようしましょう。
